

若手技術者と熟練技術者の交流会 開催報告

第1回 KAP 萩生田秀之氏

(一社) 日本建築構造技術者協会
若手部会 主査 羽田和樹

1. はじめに

JSCA 若手部会では、若手技術者の技術力向上と成長のために、講演会や見学会等のイベントや組織を超えた技術者同士の交流会を実施する活動を行っている。第一線で活躍されている熟練技術者の方をお招きし、ご講演並びに講演者と参加した若手技術者が直接会話して交流出来るイベントを企画した。熟練技術者との対話によって強い刺激を受けると共に、組織を超えた横の繋がりを作ることで技術者個人だけではなく業界全体を活性化させるような貴重な機会になればと考えている。

2. 交流会当日

初開催となる今回は(株) KAP の萩生田秀之さんをお迎えし、若手技術者に向けてご講演頂くと共に、飲食を伴いながらカジュアルな雰囲気の中で色々なお話を伺った。会場は株式会社設計さんにご協力いただき、本社カフェテリアをお借りした。

講演の序盤はKAP(当時は空間工学研究所)に入所するまでの学生時代についてと若手時代に担当した2件をお話しいただき、夢中に実務に取り組みながら、建築のすばらしさを体感して構造設計という仕事に喜びを感じたという実感を得られたと話されていた。これは参加者も若手の頃に経験した気持ちと同じで、

参加者が共感して会をスタートできたことと思う。

中盤では、釘を使わない伝統工法の「木組み」を採用し、地元の大工とのキャッチボールにより実現するモノづくりに対する設計者と作り手の熱意が伝わってくるような話などを伺えた。さらに、構造設計者としての経験が重ねられ、実験を通して部材の性能を確かめながら行ったプロジェクトをご紹介いただき、与条件の確認から提案までのプロセスは会場の若手にとって大変勉強になったことと思う。

会場からの質問も多く大変盛り上がり、萩生田さんのご厚意で延長して講演会が続いた。

3. まとめ

今回の交流会の参加者は38名(正会員11名(若手部会除く)、非会員26名、学生会員1名)であった。萩生田さんの講演では若手時代の作品や代表作など多岐にわたり、設計時のプロセスや提案について講演いただいた。会 JSCA 若手部会では今後もこのような活動を積極的に取り、構造設計業界のつながりをつくりながら、切磋琢磨できる業界としていきたいと考えている。早速第2回目も企画中である。各社の構造設計者のヨコのつながりを強くしていきたい。次回も多くの方にご参加いただきたいと思います。



会場の様子